

録音機器の不調により会議途中から録音ができなかったため、一部を概要のみの記録と
しています。

令和元年8月鳥取県定例教育委員会

開催日時 令和元年8月8日(木)
午前10時～午後0時

1 開会

○山本教育長

ただいまから令和元年8月定例教育委員会を開会します。よろしくお願いいたします。

2 日程説明

○山本教育長

それでは最初に、教育総務課長から本日の日程説明をお願いします。

○片山教育総務課長

本日は、議案3件、報告事項12件の合計15件です。ご審議よろしくお願いいたします。

3 一般報告

○山本教育長

それでは、私から一般報告をいたします。夏休みに入りまして、事務局の中も多少落ち着いた雰囲気の中で各種研修会等々、行っているところです。委員の皆様方にもご参加いただきました九州地方での全国高等学校総合体育大会、あるいは高等学校総合文化祭等を含め、各種大会など、県内でも開催されているところですが、インターハイでは、倉吉総合産業高校の選手が見事自転車ロードで優勝するといったことでありますとか、あるいは、ハンガリーで行われた国際生物学オリンピックで鳥取西高の生徒が金メダルを受賞するなど活躍が見られているところです。

また、働き方改革を進める中で、これからお盆に入りますが、多くの県立学校でお盆の期間中を対外業務停止日という言い方をしますが、広くは学校閉庁日といういい方で行っております、そうした日を設けて、電話対応や部活動・補習なども一切止めて、基本的には学校を休みにするといったことで、教員方も休暇を取りやすくなるような取組も始めているところです。

7月18日には、いじめ問題対策連絡協議会を開催しております。大津の事件を契機に法律が制定され、それに基づいて関係機関との連絡協議会ということで設置しております。詳細は後ほど報告させていただきたいと思いますが、いじめの小さな芽を見逃さず早期に発見して、組織的に対応するということを中心施策においているわけですが、そうした中で重大事態にならないように努めていくということです。そうした取組の中で近年些細なことも見逃がさないということが、学校現場にも大分定着してきているなということが、今回認知件数がアップしているということで、そうしたところが見て取れるわけ

ですが、昨年度この会で意見が出ておりました他県等の事案を教訓として、それにしっかり学んでいこうということで、対応マニュアルを作っていこうじゃないかという発案がなされ、それについて中身を議論したところです。もう大方できあがっております、これを今後、研修会等で活用していくということになろうかと思えます。

7月23日には、鳥取看護大学・鳥取短期大学との協定締結及び意見交換会を開催しております。この両機関ともかねて連携を取っておりますが、この度、正式に協定を締結して取り組んでいこうということで、例えば、鳥取看護大学が進めておられる「まちの保健室」という今、学校にある保健室に生徒たちが相談にいたり、ちょっと調子が悪くなったら訪れるというものをまちの中につくっていこうという取組ですが、そうしたところに実際の看護師の方等が血圧を計ったりされ、その待ち時間等に話し相手になったりというところで、高校生のボランティアの活躍の場面があるのではないかとといったことで、そういった取組への参加促進や、鳥取短期大学で出前授業の色々なメニューをつくっておられますが、なかなか利用が伸びないということで、高校での積極的な活用などが提案されております。県教委側からは、県立美術館の整備促進に向けて、この両高等教育機関の学生の参加などについても、取組ができるのではないかとすることを提案させていただいております。こうしたことなど相互の機能を活用して実践的な連携協力を行うこととしたところです。

7月30日に中央教育審議会生涯学習分科会、昨年10月から、これは島根県の前教育長がこの中央教育審議会の分科会の臨時委員を務めておられて、辞められたその後を実は私に白羽の矢が立ちまして、昨年10月からこちらの臨時委員を務めておりますが、これまで報告等していなかったのですが、実は議会等と開催日が重なったりして、今回初めて参加したということで報告させていただきます。分科会としては昨年大きな答申を出しております、実は社会教育施設、これまで教育委員会が所管してきていたものについて様々な状況の中で、首長部局も所管できるようにするという法律改正がありました、その元となる方針を昨年出しておまして、そうした大きなものが出された後なので、今現在は特に何かをしないといけないということではなかったんですが、今議論を始めているのは、社会教育の今後の在り方についてどのような役割を果していけるだろうか、そうしたことについて幅広く議論したところです。先般は、ふるさとキャリア教育に鳥取県が取り組んでいる中で、中学生と大学生と地元の人とをマッチングして話をする中で、地元のことを知ったり人のことを知ったりというような新たな取組を始めていますということをご紹介したところです。

8月3日に「未来とりっこわくわく大作戦啓発フォーラム」を開催しております。本年度からスタートしている「教育振興基本計画」、この基本となっている理念について、分かりやすく県民の方にご紹介しようということで、鳥の劇場の方々に大変お世話になりました。他にも、PTA協議会等とも、連携しながら開催したところです。当日は倉吉市のお祭りの日と重なっていましたが、非常に暑い中、300名近い親子の方にご参加いただき、そういう意味ではいいキックオフの取組となったのではないかと考えております。これについて詳細を後ほど報告させていただきたいと思えます。

また、7月31日の夕刻から8月1日にかけて、「全国学力学習状況調査」の結果が公表されたところです。基本的には平均という、まあ、英語は少し悪かったというところで

すが、ここ数年は右下がりの傾向が続いておりまして、学力向上の取組を再構築している真っ最中ですが、残念ながらV字回復ということにはほど遠く、何とか踏み留まっている状況です。引き続き、危機感を持って対応すべきと考えておりまして、こうしたことについて市町村あるいは学校現場と、しっかりと危機感を共有しながら、効果の上がっている取組など、新たに始めた取組の中で、そうした効果が上がっているものもありますので、そうしたことを通じて改善を図っていく必要があると考えており、このことについても後ほど現在の分析状況も含めてご報告させていただきたいと思っております。私からは、以上です。

4 議事

○山本教育長

続いて、議事に入ります。本日の議事録署名委員は、若原委員と佐伯委員をお願いします。

○山本教育長

まず、森田次長から、議案の概要説明をお願いします。

○森田次長

議案第1号「鳥取県立高等学校の単位制による全日制、定時制及び通信制の課程の運営の特例に関する規則の一部改正について」ですが、具体的には県立八頭高等学校において新たに単位制による運営を導入するための関係規則を改正するものです。

議案第2号「令和2年度鳥取県立高等学校募集生徒数について」は、令和2年度の県立高等学校の募集定員数について決定するものです。

議案第3号「鳥取県立学校管理規則の一部改正について」は、県立高校で学科の募集停止、学級数の減等に伴う収容定員を改める改正を行うものです。

○山本教育長

それでは、議案第1号について、担当課長から説明してください。

【議案第1号】鳥取県立高等学校の単位制による全日制、定時制及び通信制の課程の運営の特例に関する規則の一部改正について（公開）

○酒井高等学校課長

八頭高校においては、令和2年度に一学級減及びコース制の廃止の導入を決めているところですが、この改正に併せて単位制を導入することで、生徒の進路に応じた多様な授業選択を可能にし、進学実績の向上など、学校の魅力化を進めていきたいと考えているところです。改正前は青谷高校、その下に八頭高校の全日制普通学科普通科ということで、単位制の高校が一つ増えることとなります。以上です。

○山本教育長

ただいまの説明について、委員方から質疑、ご意見ございましたらお願いします。

(特になし) 原案について、特に異論はないようですので、議案第1号は原案のとおり決定したいと思います。

【議案第2号】 令和2年度鳥取県立高等学校募集生徒数について (公開)

○酒井高等学校課長

八頭高校280名だったところが、一学級減で240名。智頭農林高校と倉吉農業高校、この二つが学級定員を減ずるということで、智頭農林が80名から68名、倉吉農業高校は各学科ごとに38名から34名ということになります。全日制課程の募集生徒数は3,922名ということで、昨年度の3,986名から64人減ということになります。定時制、通信制は変更ございません。

○山本教育長

この件は、昨年度オープンにして、議会等でもご議論いただいたものを取りまとめて提案したものです。議案第2号、いかがでしょうか。(特になし) それでは、議案第2号も原案のとおり議決したいと思います。

【議案第3号】 鳥取県立学校管理規則の一部改正について (公開)

○國岡教育人材開発課長

まず今、議案第2号で議決された募集生徒数の変更に伴い、改正の概要のところ(1)から(5)までありますが、今の募集定員減に伴って、(2)(3)(4)、八頭高、智頭農林、倉吉農業の収容定員を改めるものです。また、(1)鳥取工業については、昨年度、理数工学科を募集停止としたことにより、来年度には学科がなくなりますので、その分を削除するものです。(5)は今年度に普通学科を八学級であったものを一学級減としたことにより収容定員を改めたものです。

○山本教育長

新たにスタートするものと、これまでのものが学年進行しているものとの両方が入っています。議案3号、いかがですか。(特になし) それでは議案第3号についても、原案のとおり議決したいと思います。

5 報告事項

○山本教育長

続いて報告事項に移ります。始めに事務局から順次、説明し、その後、各委員から質疑をお願いします。まず、報告事項ア〜クについて、説明してください。

【報告事項ア】 未来とりっこわくわく大作戦啓発フォーラムの開催結果について

○小谷教育総務課参事

教育長の一般報告にもありましたが、県PTA協議会との共催で、8月3日、倉吉未来中心でフォーラムを開催しました。500人近くの方が集まりました。「教育振興基本計画」の基本理念を支える「4つの力と姿勢」を分かりやすく伝えるため、「とりっこ」を合言葉にキャッチフレーズを作り、「未来とりっこわくわく大作戦」として啓発フォーラムを開催しました。

キャッチフレーズを倉吉市の小中学生の子どもたちに、開会行事で、その場で発表してもらい、会場みんなで、未来とりっこわくわく大作戦のスタート宣言をしました。「とりっこ」についてですけれども、各子どもたちが、

「と」とどけよう まわりの人への思いやり やさしいことば

「り」リードしよう ふるさととっとり 世界の未来

「つ」つづけよう 毎日のめあて 心とからだの健康づくり

「こ」こうどうしよう 小さな目標達成から 将来の夢の実現へ

とそれぞれが発表して、会場でスタート宣言をしました。開会行事については、子どもたちの力を借りながら、会場全体で盛り上げました。

その後、鳥の劇場のご協力により公演を行いました。今回は、ただ演劇を見て感動するだけでなく、物語の仕組みとといいますか、演出の在り方を会場の皆で考える公演でした。具体的には、「がまくんとかえるくん」のところで、音楽のパターンを三つ聞いてもらい、会場の皆で「この音楽だったら、どういう劇になるかな。どういう物語になるかな」と演出効果と一緒に考えながらやっていくというものです。

「アナンシと5」は、会場みんなで「5」という言葉を発しながら輪になって、会場みんなで盛り上がっていくというもので、皆さん立ち見で、会場に入り切らないぐらいでした。

感想としましては、子どもたちからは、「本物を見て、迫力がすごかった。」という意見がありましたし、保護者の方からは、「劇という表現の世界の面白さを知ることができた」や、「みんなが参加する体験でとてもよかった」ということでした。資料には記載していませんが、幼稚園の子どもを持つ保護者からは、「子どもがすごく演劇に興味を持った」というものもありました。親子で参加することが狙いでした。

本番の作戦ですが、作戦その1「親子で電子メディア利用のルールをつくろう」というフォーラムを設けております。前半は講演会で、真面目な話をした後に、後半はワークショップということで、親子で参加しているので、親子でルールをそれぞれ考えて、親子間で話し合いながらルールづくりをしました。感想としては、「スマホやゲームの使い方、ネットについて詳しく知れてよかった」と小学生からの感想や、保護者の方からは、「色々な研修に参加してメディアのことはたくさん知ったように思っていたが、話を聞いて新たに知ったこともありよかった」といったご感想がありました。

作戦その2「親子でいっしょに演劇をつくってみよう」は、絵本をモチーフにして、「とりっこ」をテーマに四つのグループに別れて劇づくりを行いました。物語のストーリーを考えながら役になりきり、相手に伝わるように表現することの楽しさを学びました。小学生の感想としては、「劇をつくれて楽しかった。またやりたい。」保護者の方の感想は、「演劇づくりでは久しぶりに声が出せて楽しかった。子どもと一緒に親も楽しめた。」でした。

作戦その3「「眠りのメカニズム」や「食」の大切さを学ぼう」は、これは保護者対象だったのですが、大切な眠りにスマホやタブレット等のブルーライトが、色々な悪影響を及ぼしていると聞きました。生活習慣を整えることによって、色々なよい効果があることについて講演していただきました。感想としては、「子どもたちの成長に関わる大切なことが聞けました。大人から努力したいです。」とのことでした。

作戦その4「いっしょに体を動かして親子のかかわりを考えよう」は、子どもの「集中力」「忍耐力」「あきらめない力」などを養うための体感プログラムで、親子で楽しみながら笑顔が一杯溢れるようなプログラムを経験しました。その後に親だけで標語づくりをし、保護者同士のつながりや家庭教育の大切さを学びました。感想として一番多かったのが、「我が子の笑顔がたくさん見られた」「親子のふれあいは今だからこそ、たくさんすることの大切さを再確認した」「子どもと一緒に過ごす時間の大切さを知った」というものでした。そのほかにも、環境大学の英語村による英語を使った遊び、中部のモノづくり道場によるペットボトルを使った発電装置づくり、おもちゃづくりなど様々なコーナーを設けて実施しました。

閉会行事として、作戦その2で作りに上げた演劇を披露しました。そして、鳥取県PTA協議会会長に閉会あいさつを行っていただきました。

全体の感想としては、「親子、会場のすべてとつながった企画が素晴らしいと思った」や「今回のフォーラムは必要不可欠なものなので、ぜひ、東部・西部でも継続してください」というご意見がありました。また、舞台上で発表した保護者の方からは「発表者で子どもを参加させてもらい、よい経験ができ、少し何か成長できたかな」という感想をいただきました。

今後の取組として、様々な取組を仕掛けたスタンプラリーを考えております。スタンプラリーの葉書大のカードに「とりっこ」それぞれのキーワードを基に、図書館、博物館等で「とりっこ」に関連したイベントに参加したりすると、スタンプやシールを収集でき、集めて応募した子どもにプレゼントをとということを考えております。引き続き大作戦の展開を続けていきたいと思っております。

【報告事項Ⅰ】鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会との連携協定締結式及び意見交換会の概要について

○小谷教育総務課参事

7月23日に鳥取看護大学で開催しました。協定の内容としては、高大連携による魅力ある教育活動の推進に関する事、教職員の資質能力の向上に関する事、学生・生徒・児童等の教育支援及び社会貢献活動に関する事、学校教育及び社会教育に関する諸課題の対応に関する事、その他の学校教育の取組に関する事が盛り込まれた協定書による協定締結を結んだところです。

協定式が終わった後に、両大学と教育委員会との意見交換会を設けました。先ほど教育長の一般報告でもありましたが、「まちの保健室」の連携についてということで今、鳥取看護大学は月一回で「まちの保健室」を開催しておられまして、学生が地域の方々を呼び込み、血圧を計ったり、「体の状態はどうですか」といったお話をします。それによって、

地域の方たちは体も心も癒されるというかたちの取組をしておられます。そこに高校生が参加して、地域の方と触れ合うによって、地元地域のことを知ることにもなりますし、「社会の中で何か役立ちたい」という意識付けにもなります。

主な意見として、大学からは、「まちの保健室」に高校生がスタッフとして参加することにより、自主性や責任感を養いながら、コミュニケーション力を身に付けるとともに、地域を知り、社会の中で役に立つというキャリア形成にもつながるだろう。」「地域において、支援者の中で役立つキャリア形成ができるのではないか」というご意見が出ました。県教委からも、「地域の方の色々な困り感が聞けて、高校生の段階から地域の課題を学ぶことができ、また、自分の生き方を見つけるヒントになるのではないか」という話をしました。看護師志望だけでなく、地域の課題を知るという意味では、学校種にこだわることなく、すべての高校生が参加することによって、得るものが大きいと考えます。

もう一つのテーマとして、「県立博物館、県立美術館との連携」ということで、県立博物館が実施している、美術のワークショップや出前授業に学生が参加することで、開館前から、美術館のできる地域の大学と関わっていけるのではないかと提案をさせていただきました。大学からも、ワークショップへの参加であったり、対話型鑑賞についてはすぐにでも協力できるのではないかとのことでした。また、中長期的なところでは、授業での位置付けのようなところも考えてみたいとの意見がございました。美術ということもあって、住居・デザイン専攻に関わらず、幼児教育など他学部も含めて、色々なかたちで関わっていけたらというご意見もいただきました。県教委からも、未来を創る美術館をコンセプトにしているので、学生が鳥取県の活性化を含めて議論し、色々なことを提案してもらったらありがたいということをお話しました。また、県民の方が自発的に美術館と関わっていける仕組みをつくっていききたいということもお話しました。

その他としては、両大学が実施されている出前授業のワークショップ的なものの中に、災害時に地域の一員として行動できる力を育成するための自治会長ゲームというものがございまして、これは災害を想定してコミュニケーション能力を高めたりするのに重要ではないかということで提案いただきました。それ以外にも、イングリッシュカフェというものを行っておられまして、これは出張なのですけども、小学生が対象となると思いますが、小学校で英語が教科化されることもありまして、本物の英語に触れるととてもいい機会になるのではないかとということで、こちらも調整できたらと思っているところです。

連携協定後の具体的な動きとして、8月9日に県立博物館のワークショップに鳥取看護大学、鳥取短期大学の学生7名と教員4名が一緒に関わっていただくことになっております。また、8月21日には、鳥取看護大学が実施している「まちの保健室」に、ひとまず参加者として中部の高校生が3名参加する予定です。引き続き連携を深めていけたらと思っております。

【報告事項ウ】山陰教師サポート連携協議会（S×T協議会）の設立について

○小林参事監兼教育センター所長

この会は今後の話でございまして、会の報告ではなく、設立の主旨等について皆さんにも知っておいていただきたいという思いで今回、報告事項として挙げたものです。イメー

ジというか、構想につきましては資料に示したとおりで、実はこれまでの流れの中で、平成29年度に「現場の教職員の育成をどうするか」ということで協議会を立ち上げました。

そしてその中で育成指標というものを作って、昨年度、教育センターの研修等を中心に、その指標を基にした研修を行って参りました。今回の会の趣旨は、日常の特に若い教員方を中心に、教員をどうサポートしていくのかという必要性をすごく感じておりました、それを島根大学との連携というベースの中で、例えば、採用者における新卒教員が、どんどん小学校等で増えていく中で、育成を担っている島根大学は卒業したら終わりではなく、実際現場でどうなのだろうかということも含めて、教育センターが初任者研修を担当しておりますので、一緒になって現場の初任者等若い教員方の支援をしていこうという思いから、今回「S×T（エスパイティ）協議会」という会を立ち上げて、実務者レベルで現場支援をやっていききたいといったことです。

なぜ「S×T協議会」なのかですが、ちょっと掛詞的にしておりました、島根と鳥取という意味もありますし、StudentとTeacherという意味もありますし、もう一つはSupportとTogetherということで、支援、連携という意味の言葉もこの中に盛り込み、「S×T協議会」という名前を付けております。

実際には、8月27日に第一回のキックオフの会をしたいと思っております、これは完全に実務者レベルという前提で、島根大学教師教育研究センターのセンター長と、鳥取県教育センターの所長である私が、一番前面に立って、今後具体的な連携について協議していくという予定でおります。そうは言っても、センターだけで現場の教員の資質の向上を行っているわけではありませんし、子どもたちの学力向上の話もありますので、県教育委員会内の関係各課にも声をかけて、各課が行っているところもこの中に出していきながら、島根大学と一緒に何ができるかという部分を実務的に進めていきたいと思っております。また、第一回の会が終わりましたら、実際こんなことが課題だ、こんな課題意識を持ったんだということも、ご報告したいと思っております。

【報告事項エ】平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について

○中田参事監兼小中学校課長

まず、本年度のテストですが、知識に関するA問題、それから活用に関するB問題というのが一体となったもので実施されました。また、中学校英語は今回初めての実施です。結果については、国語、算数・数学は小中とも全国平均と大きな差は見られませんでした、中学校英語については、全国平均を下回りました。成果としては、小学校算数は昨年度課題があるということで取組を進めてきたのですが、その成果が見えてきたということを感じています。活用問題集や単元到達度評価問題の活用等々によって、算数の学力向上にある程度の成果が見られたのではないかなと思います。また、学校訪問等も実施してまいりました。各学校での授業改善が進みつつあると感じております。中学校英語についても、生徒のアンケートの結果から見ますと、各活動のこと、それから問答したり意見を述べ合ったりする活動の下、学校で一生懸命行われていると答えている割合が大きくて、いま言語活動を大切にしながら進めていく学習の進め方は、定着してきているのではないかなと思います。

また、質問紙では、「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をしている割合が全

国平均を上回っており、自己肯定感の辺りでは醸成が進んでいると感じております。

課題として、国語が全国よりかなり上位で推移していましたが、今年は平均のところまで落ち込んできているということで、かなりの危機感を持って取組んでいきたいと思えます。問題の内容等によって、分析しながら、「こういう部分ではこういう弱さがあるな」ということは、これから分析を進めていきたいと思っているところですが、全体的には算数もそうでしたが、国語についても、毎日の授業改善が一番大事になってくるのかなと思えます。

また、英語については、色々な難しい問題もあつたりしたというのがありますし、それからなんととっても、読んだり聞いたりした後に最後書かせるような場面があつたりしまして、そういうところで苦戦していたのかなということを感じています。

録音機器のトラブルにより、以降の音声録音ができていないため、以降は概要のみの記載とします。

報告事項オ 令和2年度鳥取県立高等学校推薦入学者選抜募集人員及び県外生徒募集実施校等について

○高等学校課長から資料により説明。

報告事項カ 第30回国際生物学オリンピックハンガリー大会における銀メダル受賞について

○高等学校課長から資料により説明。

報告事項キ 令和元年度鳥取県いじめ問題対策連絡協議会について

○いじめ・不登校総合対策センター長から資料により説明。

報告事項ク アメリカ図書館協会（ALA）での県立図書館の事例発表について

○鳥取県立図書館長から資料により説明。

○山本教育長

それでは、報告事項アからクについて、委員方からご質問をお願いします。

報告事項ア（未来とりっこわくわく大作戦）

○中島委員

娯楽の一つとして、スタンプラリーに参加してもらえるような仕組みを作ってほしい。

○佐伯委員

参加者の居住地区なども把握して、次に向けた取組みにつなげてほしい。

○小谷教育総務課参事

当初予算に向けて考えていきたい。

○鱸委員

ここに来る方は意識レベルが高い方々だ。来られない方をどうしていくか、次回に向けて策があるか。

○小谷教育総務課参事

PTAに声かけをして動員して行っていくとよい。

○鱸委員

この成果を東部や西部の方にどう伝えるか課題。

○中島委員

未来とりっこの専用ウェブサイトを作ることができないか。皆が見られるサイトを作ってみてはどうか。

○小谷教育総務課参事

ウェブサイトの工夫を考えてみたい。

○鱸委員

こういうフォーラムをするのにお金はいくらくらいかかるのか。

○小谷教育総務課参事

全体で200万円程度かかる。

報告事項イ（鳥取看護大学、鳥取短期大学との連携協定）

○中島委員

今後が楽しみ。

○山本教育長

動きが見えるようにしたい。

○中島委員

鳥取看護大学と鳥取短期大学の学生数はどのくらいか。

○足羽教育次長

鳥取看護大学が80人×4学年の320人、鳥取短期大学の定員が300人。

○佐伯委員

イングリッシュカフェなど、英語に触れあう機会として活用してはどうか。

○中島委員

プラットフォーム5とは何か。

○小谷教育総務課参事

県内4大学と米子高専の5校を指す。

報告事項ウ（山陰教師サポート連携協議会）

○中島委員

鳥取大学はここに参加できないか。カウンターパートとしてもう少し広がりがあるとよい。

○小林参事監兼教育センター所長

鳥取大学とはこの会ではなく、教育センターとつながりながらやっていくことを検討中。島根大学が山陰両県の教員養成を担っている。

○若原委員

島根大学には、教職大学院はあるのか。

○小林参事監兼教育センター所長

ある。

報告事項エ（全国学力・学習状況調査）

○佐伯委員

英語は地域性があるか。

○中田参事監兼小中学校課長

ある。

○中島委員

差が出るのは教え方の問題なのか。

○中田参事監兼小中学校課長

指導力の問題もあると思う。

報告事項オ（推薦入試、県外募集）

（特になし）

報告事項カ（国際生物学オリンピック）

（特になし）

報告事項キ（いじめ問題対策協議会）

○中島委員

初期の電話対応で失敗した事例はあるか。

○三橋いじめ・不登校総合対策センター長

マニュアルに失敗事例と留意点を示している。

報告事項ク（アメリカ図書館協議会）

（特になし）

○山本教育長

残りの報告事項については、時間の都合により説明を省略します。以上で、報告事項を終わります。次回は9月11日（水）午前10時から定例教育委員会を開催したいと思いますが、いかがでしょうか。（同意の声）以上で、本日の日程を終了します。